

研究タイトル： ナサニエル・ホーソーン作品における墓地および追悼に関する表象研究



| | | | |
|----------|--|---------|-----------------------|
| 氏名： | 小宮山真美子 / Mamico KOMIYAMA | E-mail： | komi@nagano-nct.ac.jp |
| 職名： | 准教授 | 学位： | 文学修士 |
| 所属学会・協会： | 日本アメリカ文学会、日本英文学会、日本アメリカ学会、日本ナサニエル・ホーソーン協会、Modern Language Association of America、The Poe Studies Association | | |
| キーワード： | 19世紀アメリカ文学、記憶、戦争、文学理論 | | |

研究内容：

提供可能技術： .

これまで「共同体の弔い」をテーマとし、19世紀アメリカ文学を中心に研究を進めてきた。今後は第一の研究課題として、1830年代および1860年代を中心に、ナサニエル・ホーソーン(Nathaniel Hawthorne)の短編に描かれた「戦争」という事象に注目し、アメリカの民主主義の成り立ちを検証することである。ホーソーンが描く民主主義時代の物語を追跡することで、アメリカ大陸の土地空間のみならず、ヨーロッパ世界との戦争という広いコンテキストの中でアメリカ国家の成り立ちを考察する。

第二の研究課題としては、ホーソーンの晩年に書かれたロマンス作品(『アメリカの相続者原稿』および『不老不死の妙薬原稿』)を中心とする分析を通して、国家と喪の作業について考察する。墓地や土地空間を含めた遺産が、アメリカとイギリスという国家間を横断する課題であることを確認した上で、アメリカ国家成立に関与するこの問題が、内部分裂を孕む南北戦争が進行する19世紀中葉のアメリカにおいて作品にどのように反映されていたかを解明する。

・共著：

下河辺美知子編著『アメリカン・テロル』：「死」を生かすための写真術—『七破風の屋敷』における再現・表象(リプレゼンテーション) (pp.141-64) 2009年6月10日発行

・論文：

「ロジャー・マルヴィンの埋葬」における未完の埋葬、『アメリカ研究』第49号(pp.119-34)、2015年3月
 『『緋文字』を語るための序章—中間(neutral)地帯(territory)としての「税関(カスタムハウス)」』『成蹊大学人文研究第15号』(pp.17~32) 2007年3月
 「“Alice Doane’s Appeal”における語り：ロマンスの萌芽～Gallows Hillに立って」『成蹊大学人文研究第14号』(pp.17~28) 2006年3月
 “John Hersey’s Twice-told “HIROSHIMA” *Review of Asian and Pacific Studies* —特集：21世紀と「核」(pp.57~83) 2005年2月、他。

・書評：

入子文子編著『英米文学と戦争の断層』、『ニューズレター No. 177』日本アメリカ学会発行 2012年6月

提供可能な設備・機器：

| 名称・型番(メーカー) | |
|-------------|--|
| | |
| | |
| | |
| | |